PR

おはようございます

JAあづみ 金融共済事業部 貯金課
鰐川（わにかわ） 貴大（たかひろ）

入組1年目。新人の年も残り3カ月余になりました。金融窓口に来所された組合員や地域の方々の口座開設や各種振り込み、入出金などの手続きを担当していますが、皆さまから「丁寧に教えてくれてありがとう」と感謝の言葉をいただくこともあります。仕事のやりがいを感じる時です。明るく丁寧な接客を心掛け、いっそう信頼される職員を目指したいと思います。

健康Q&A

症状により待機期間に長短 軽症なら4週間

コロナ感染で手術延期に

Q **膝の靭帯（じんたい）断裂と診断されました。手術日が決まった直後に新型コロナウイルスに感染していることが分かりました。症状は軽く、今の体調は万全です。感染するとすぐには手術できないと言われたのですが、いつ手術が受けられますか？（19歳、男性）**

A いろいろなことが重なりご心配されていると思います。新型コロナウイルス感染後の手術時期は、症状の重症度や手術の必要性を総合的に考えて判断します。2020年に世界116カ国の病院で手術を受けた14万人の患者データを分析した結果、新型コロナウイルス感染後7週間以内に手術を受けた場合、術後30日以内の死亡リスクが高まるという衝撃的な情報がもたらされました。しかし、手術延期による病状の進行や悪化は避けなければなりません。そのため、感染時の症状を確認し、無症状、あるいは軽症で呼吸器症状がなかった症例は4週間、咳（せき）や呼吸苦などの症状はあったが入院加療を要さなかった症例は6週間、入院加療を要した症例は8～10週間を待機期間としています。

倦怠（けんたい）感、息切れ、胸痛のような後遺症状は長く続くことがあります。また感染後の検査で心臓機能が低下していたという報告もあります。そのため、後遺症のある患者さんでは、しっかり検査してから慎重に手術時期を決めています。

お話を聞く限り、幸い軽症であり体調も万全であれば、診断された日から4週間空けていただければ手術を受けられると思います。

（JA長野厚生連長野松代総合病院
麻酔科　水戸野裕之）

お知らせボード

★長野県農業法人等就業フェア

2023年1月7日(土)午前11時～午後3時、長野市北石堂町のJA長野県ビル アクティーホール。県内での就農希望者を対象に事前に予約（無料）を募って開く。県外在住者向けにオンライン相談も(要予約)。会場では県内の農業法人や個人農家が、個別面談に応じ、専任相談員らが新規就農相談を受け付ける。先輩社員が体験談などを披露する「農業法人就業セミナー」（正午～40分間）も。詳細はWEBサイト「デジタル農活信州」（右のQRコード）または事務局の公益社団法人長野県農業担い手育成基金☎026・236・3702へ。

＊新型コロナウイルスの感染状況により中止を含め予定が変わる可能性があります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

持続可能な地域社会へ
JAは取り組んでいます

8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
12 つくる責任 つかう責任
17 パートナーシップで目標を達成しよう

信州和牛 未来へ手応え

和牛能力共進会 鹿児島大会を振り返る

和牛の品質を競う「全国和牛能力共進会（全共）」が10月に鹿児島県で開かれました。5年に1回開かれる同大会は「和牛のオリンピック」とも呼ばれる国内最大の和牛イベントで、開催地では中心となる品評会はもとより、観光や文化など幅広い催しで盛り上がります。12回目を数える今回は41道府県から438頭が出品され、種牛と肉牛の部で牛の月齢別などに合わせて九つの区で競いました。長野県代表として信州和牛をアピールする最前線に立った参加者に聞きました。

鹿児島県で開かれた第12回全国和牛能力共進会に出場した長野県関係者（JA全農長野提供）

若手の熱気 今後に期待

古原 敬久さん（川上村）

種牛の部・2区（14～17カ月未満の雌）優等賞17席、同3区（17～20カ月未満の雌）1等賞1席＝県勢では過去最高

＊　＊

鹿児島までトラックで牛を連れて行くだけで17時間ほど。正直なところ2頭出品するのは大変で、一度は辞退も考えましたが、出たくても出られない人のことを思い頑張りました。出場が決まってからのJAをはじめとした関係者の支援には感謝しています。

これまで6回の大会に参加し、今回と前回の2大会には出品もできました。今回、高校生を対象にした特別区がありましたが、その点を割り引いたとしても若い人が目立ったことが印象に残りました。私は56歳になりましたが、県内ではまだ若手。他産地では大会に向け勉強会を開くなど切磋琢磨（せっさたくま）する環境があり、うらやましく思いました。

今回は会場の様子をネット配信したため、審査の様子など、外部に居た人の方がかえってよくつかめたようです。現場では回線容量の関係か携帯すら満足につながらず、往生しました。成績については、開催地が有利なのは仕方がないにしても、ネット視聴を通した外部の人や、現場にいた産地の人からの掛け値なしの誉め言葉に励まされました。

改良と日々の管理、これまでの取り組みに手応えを感じています。飼料をはじめとした資材高など飼育を巡る環境は厳しいですが、大会を経験することで後に続く人が出てくるよう期待しています。

特別な経験、自信になった

吉川 秀之さん（豊丘村）

肉牛の部・8区（24カ月未満の去勢肥育牛）1等賞

＊　＊

2回目の挑戦で初めて全共出場が果たせました。県代表牛に決まってから大会までの2カ月間は、牛に万が一のことが起きてはならないと、夜中も見回るなど、心血を注ぎました。

審査は2日目の枝肉確認段階で、生体の外観からは分からないわずかな瑕疵（かし）を指摘され優等賞は逃しましたが、肉質面ではロース芯面積や歩留（ぶどま）りなどの多くの項目で全国上位の成績を収めることができました。競りの際に隣にいた専門家から「きれいな脂だね」と褒められるなど、自信になりました。

何より、生後24カ月未満と、通常より4カ月も少ない期間で仕上げられることが分かり、今後の経営に生かせそうです。餌代の高騰など最近の厳しい飼育環境を考えると、出荷までの期間短縮は切実な課題ですから。

子牛を含めて300頭ほどの牛を飼っていますが、全国の舞台に立つため、そのうちの1頭に相当の熱量をもって世話しました。日常に戻った今は夢から覚めたような感覚です。また一から頑張ろうと思っています。

4月からは息子も飼育に加わってくれています。大変な時期の始まりになってしまいましたが、飼育農家になって良かったと思われるよう、取り組みたいと考えています。そして5年後の次回に再挑戦したいです。

新食肉処理施設をぜひ

小田切牧場 小田切 隆治代表（東御市）

肉牛の部・8区（24カ月未満の去勢肥育牛）優等賞13席

＊　＊

20年ほど前に起きたBSE（牛海綿状脳症、狂牛病）を機に日本の牛肉を巡る商習慣は一変しました。産地偽装を防ぐトレーサビリティー制度の整備が進み、今や子牛段階でDNAを登録することも。産地間のブランド競争も激化しました。全共はその最前線です。

長野県の場合、各地にあるブランドに対して一定の基準を設け「信州プレミアム牛肉」と認定する制度を2009年から導入しています。おいしさの基準として注目したオレイン酸の含有率が、今回初めて全共で評価項目に加えられました。県内の取り組みの先進性は誇れると思います。

個人的には前々回、代表に選ばれながら直前に牛の病気でやむなく辞退し、前回は予選敗退。今回、優等賞で面目を果たせました。中野市出身の私が当時の東部町に移住して牧場を開き約40年。地域の米農家から出る稲わらを牧場でできる堆肥と交換するなど和牛飼育を循環型農業の一つに位置付け、地域に支えられた結果だと思っています。

県内では牛の飼育は従来、南信州地域が盛んで、地域的な広がりはいま一歩でしたが、今回の全共では協力態勢を含めて全県的な取り組みができたと思います。さらに安心・安全な「信州プレミアム牛肉」を国内外にアピールする上で、最新の衛生管理が充実した食肉処理施設の新設をぜひ実現してほしいと思います。

地域の支援 身に染みた

下伊那農業高校・アグリ研究班畜産部（飯田市）

特別区（高校・農業大学校の部）優等賞23席

＊　＊

今回、若手育成のため新設された特別区には下伊那農業高校が出場しました。出品したのは同校で生まれた15カ月の雌牛「れいん」。会場で牛を引くハンドラーを部長の清強志さん、介助者を渡部さくらさんが務め、取り組み発表は三浦萌佳さんと川島佳月さんが担当しました。いずれも3年生です。部員は16人いますが、大会出場を目指し特別態勢を組んだれいんの世話は主にこの4人が担いました。

清部長は「結果は24校中23位と残念でしたが、評価ポイントを下げた体高の低さは、種付け段階から研究している他校を見習うなど、改善策は見えています。きちんと引き継いで、後輩は5年後の大会に備えてほしい」と前向きです。立ち会った塚田真希教諭は「立ち方や体積感を表現する深みといった点では褒められることが多く、餌の工夫など次につながる成果は自信になりました」とも。

メンバーが口をそろえるのが「想像以上に熱気あふれる大きな大会」だったこと。「牛一頭一頭の顔を判別、顔認証ができる最先端の仕組みを取り入れている高校もあり、刺激を受けた」と言います。準備段階から地元の畜産に関わるOB、OGらが訪れ、アドバイスも。「人の優しさ、温かさが身に染みました」と振り返っています。

出品したレインと。左から部長の清強志さん、川島佳月さん、渡部さくらさん、三浦萌佳さん

和牛の面白さ実感

佐久平総合技術高校 牛班（佐久市）
池田 美岬さん（和牛審査競技会出場）

付帯行事で、外観から和牛の能力を見極める「和牛審査競技会」も開かれ、「高校生の部」には38道府県から1人ずつ出場。長野県からは佐久平総合技術高校（佐久市）の池田美岬さん（1年生）＝**写真**＝が挑戦しました。同校は県内で唯一乳牛を飼育していますが、和牛は飼っていないというハンディを乗り越えての出場。入賞はなりませんでしたが、池田さんは「県内の飼育農家や上伊那および下伊那両農業高校の協力で多くの和牛に触れる機会をいただきました。和牛の顔つきも判別できるようになり、乳牛とは別の面白さを実感。今後もこの分野に関わることができたらいいな、と思っています」と語っています。

食と農で地域に笑顔をつくります

～次代につなげる農業・組織・経営基盤の確立

JA長野県
（問い合わせ先：JA長野中央会　営農農政部）
〒380-0826　長野市北石堂町1177-3
TEL.026-236-2030　FAX.026-236-2008
いいJAん! 信州
https://www.iijan.or.jp/
長野県のおいしい食べ方
公式Twitter